

文化スポーツ観光常任委員会委員会調査報告書

令和7年8月18日（月）から21日（木）まで、在香港日本国総領事館外7か所において、次の事件について調査を実施したところ、その概要は別添のとおりでした。

【調査事件】

- ・ 文化の振興に関する事項について
- ・ スポーツに関する事項について
- ・ 観光に関する事項について

令和7年12月9日
神奈川県議会議長 長田 進治 様

文化スポーツ観光常任委員会委員長 高橋 延幸

1 調査の概要

(1) 調査日程

令和7年8月18日（月）から21日（木）まで

(2) 調査箇所

ア 在香港日本国総領事館

(46-47/F, One Exchange Square, 8 Connaught Place, Central, Hong Kong)

イ マカオ政府観光局

(Alameda Dr. Carlos d'Assumpção, n.os 335-341, Edifício "Hot Line", 12º andar, Macau)

ウ ギャラクシー・アリーナ

(Galaxy Macau™ Integrated Resort, Macau)

エ マカオ文化センター

(Avenida Xian Xing Hai s/n NAPE, Macau)

オ マカオグランプリ博物館

(Rua de Luís Gonzaga Gomes n.º 431, Macau)

カ 香港文化中心

(10 Salisbury Road, Tsim Sha Tsui, Kowloon, Hong Kong)

キ 香港芸術館

(10 Salisbury Road, Tsim Sha Tsui, Kowloon, Hong Kong)

ク 啓徳体育園

(38-39, Shing Kai Rd, Kowloon City, Hong Kong)

(3) 出席委員（計12名）

高橋延幸委員長、作山ゆうすけ副委員長、

吉田あつき、渡辺紀之、河本文雄、内田みほこ、森正明、飯野まさたけ、松崎淳、
藤井深介、松川正二郎、北井宏昭の各委員

(4) 随行者

小栗グループリーダー（議会局議事課）、渡部主事（議会局議事課）、

箱崎副主幹（文化スポーツ観光局総務室）、

戸ヶ里駐在員（中国経済事務所（大連・神奈川経済貿易事務所））

(5) 行 程

8月18日（月） 羽田空港～香港国際空港～在香港日本国総領事館～マカオ特別行政区内地泊

8月19日（火） マカオ特別行政区内地～マカオ政府観光局～ギャラクシー・アリーナ
～マカオ文化センター～マカオ特別行政区内地泊

8月20日（水） マカオ特別行政区内地～マカオグランプリ博物館～香港文化中心
～香港芸術館～香港特別行政区内地泊

8月21日（木） 香港特別行政区内地～啓徳体育園～香港国際空港～羽田空港

2 在香港日本国総領事館

(1) 調査目的

在香港日本国総領事館は、香港特別行政区及びマカオ特別行政区と日本の経済関係及び人的交流等を支援し、日港・日澳関係の充実に資するため、様々な活動を行っており、そのため、両特別行政区における観光業を含む様々な分野について情報収集を行っている。

そこで、在香港日本国総領事館を訪問し、香港特別行政区及びマカオ特別行政区の概況及び観光振興施策等について調査することにより、今後の委員会審査の参考に資するものとする。

(2) 在香港日本国総領事館出席者

在香港日本国総領事館首席領事、同副領事（地域連携担当）、同領事（広報文化部、経済部）ほか

(3) 委員長挨拶



(4) 在香港日本国総領事館首席領事挨拶

(5) 概要説明

次の内容等について、説明があった。

- ア 香港特別行政区の概況について
- イ 香港特別行政区における観光振興施策等について
- ウ マカオ特別行政区の概況について
- エ マカオ特別行政区における観光振興施策等について

(6) 質疑応答

質 疑 香港の多くの方々が日本に来てくれていることをありがたく思う。

香港と日本がワイン・ワインであるために両国間で行き来がある必要があるという話があったが、行政同士や民間同士で、観光という切り口で連携しているような事例はないか。

例えば、本県の藤沢市では、江ノ島電鉄株式会社と台湾の高雄市の鉄道と

で連携をしている。

応 答 行政同士では、総領事館と香港政府観光局とで、問題意識を伝えるなどの意見の交換を継続的に行っている。現時点では、具体的に共同で行うプロジェクトはないものの、香港政府の意見の日本側への伝達等、常日頃からコミュニケーションを取っている。

民間では、香港にも複数の大きな旅行会社があり、様々なツアーを組み、香港の人々に日本観光を提供していると聞いている。総領事館としてもそういった業者とコミュニケーションを取り、例えば、震災の関係で香港から日本への訪問者が大きく減少した際に、業者から事情を聴取するなどといったことをしてきた。香港には地震がないので、経験したことのないことに対する恐怖に対応策を打つにはどうすればいいかといったことは、結構、総領事館の中で議論をしたが、タイミングを間違うなどするとかえって不安をあおることになるなどといった問題意識の共有などは、常日頃から行っている。

また、日本側・香港側問わず、日本に関係しているイベントにおいて、総領事館が声をかけてもらえることもあるので、そういった際には、観光面などでも参加させていただき、できるだけ応援するといったことはしている。

質 疑 香港は貧富の差が激しいという話があった。また、マンションがとても多いと認識している。一戸建ては持てないと聞いたが、家賃や住宅事情はどうなっているのか。30年ほど前は、空港へ着陸する飛行機がビルの間を通っていたわけだが、空港のことも含めて伺いたい。

応 答 住宅問題については、土地が狭いため、どうしても高層マンション、高層建築物、集合住宅ということになる。具体的な統計は分からぬが、大半の住民は集合住宅に住まわれていると思われる。家賃はピンからキリで、何百万円相当というものもあれば、所得の低い方々は、三畳くらいのところに間仕切りを作り、一家で住んでいるといったこともある。

そういったことは新聞等でもよく報道されている。安全上も含め、色々と問題になっており、それを解消することは、香港政府の重要施策の一つとなっており、そういった意味では、住宅問題はとても深刻である。

公共住宅等への入居自体2、3年待つなどという状況であり、若年層は親と同居することも多いと聞いている。

昔飛行場だった啓徳については、現在は再開発が進んでおり、フェリーターミナルやスポーツパークができたり、住宅や商業施設ができたりといった形で、再開発が進んでいる。

質 疑 香港から中国本土のことを大陸と呼ぶが、中国本土側から香港のことは、何と呼ばれているのか。

応 答 そのまま、香港と呼ばれている。

質 疑 スポーツについて伺いたい。38年前、私はサッカーの日本代表選手として、香港の選手と試合をしたことがある。香港スタジアムで行われたのだが、今、そこはどうなっているのか。日本では国立競技場がリニューアルし、きれいになつたが、香港もそのような状況なのか。

応 答 啓徳スタジアムができるまでは、香港スタジアムが香港におけるメインのスタジアムだった。これも観光振興策と呼べると思うが、例年、7人制ラグビーの世界大会の一つが香港で行われており、これまで香港スタジアムで行われてきたが、やや手狭感があるため、大きなイベントについては、啓徳スタジアムに移そうという流れになっている。そのほうがより大きなイベントをよりきれいな会場で行うことができ、よりたくさん的人が喜ぶということになると思う。

香港スタジアムについても、現在、まだ使われてはいる。

質 疑 イングランドのサッカーチームを呼んで、プレミアリーグの試合をするという話があった。何チームかに来てもらい、香港で試合をするということか。また、具体的にはどういったチームが来たのか。

応 答 啓徳スタジアムで、リヴァプールF Cとトッテナム・ホットスパーF C、アーセナルF C、それにイタリアのA Cミランがそれぞれ1試合ずつ行った。フットボール・ウィークという形で、プロモーターがかなり頑張ったのか、とても目立つイベントであった。

啓徳スタジアムは5万人以上のキャパシティで、最新のスタジアムとしては大きいほうではないとはいえ、満席になっていた。また、完全冷房つきの開閉式スタジアムで、選手の評判もよかつた。ただ、天然芝については、まだ生まれたて感が強く出ている。

なお、香港スタジアムのほうには、今年5月にマンチェスター・ユナイテッドF Cが来て、香港の選抜チームと試合をしている。

質 疑 海底道路トンネルについては、株式会社熊谷組が施工したと聞いた。また、空港が移転したことにより、ビルが高くなつたとのことだが、そういうふたビルの建築においては、日本の建設会社は入つているのか。

応 答 パーツで入つているところは、もしかしたらあるかもしれないが、いわゆるゼネコン的な日本の会社は、香港では、五洋建設株式会社と株式会社フジタの2社くらいしか残っていない。昔は、熊谷組はじめ様々な日本のゼネコンが香港のインフラ整備をしたという話はよく聞くが、今は大分、さま変わりしてしまつたので、そういうふたビルの建設にはほとんど関わつておらず、例えば内装やエレベーターといったパーツにおいては、恐らく入つていると思われるが、建設としては、恐らくやっていない。

質 疑 香港での重点観光施策を六つ説明いただいたが、その中で、特に力を入れようとしているのはどこなのか、もしあれば教えてほしい。

また、マカオの説明をしていただいた中で、主要な産業が観光で、そのほとんどがカジノであり、変えようとしているものの、なかなか難しいという話があったが、どのように変えようとしていて、どのようにうまくいかない点があるのか。

応 答 概要説明の中で挙げた6点については、香港政府の正式な施政方針なので、全て等しく大事ということだと思われるが、個人的な印象としては、メガイベント系は、ニュースにもなり目を引くので、特に力を入れているような感じはある。スポーツイベントやコンサートといった人を呼びやすいものは、頻繁に行われているという感じはする。ある程度うまくやれているのではないか、香港政府頑張っているなというような印象がある。

実際、香港への観光客は増えており、具体的な数字も出してきているというふうに思われる。

マカオにおけるカジノについては、観光は観光として盛り上げつつ、多分、投資を呼び込んだり、別の産業を盛り上げようということはあると思われ、IRなどもその一つと思われる。実際の収入になっているところだけを見ると、来ている投資はあるのだろうと思うが、やはりカジノの収入に大きく依存しているというところは、あまり変わっていない。



(7) 調査結果

- 香港特別行政区の概況については、次のとおりであるとのことであった。
 - ・ 人口約750万人を擁し、一人当たりのGDPについては、日本が約3万2,500ドルであるのに対し、香港は約5万4,000ドルで、世界で20番目に高い。ただ、貧富の格差を示す指標であるジニ係数が非常に高い。日本で旅行を楽しむような層は、中間層以上であると思われ、そういう層を対象にした旅行商品が日本では用意されている。経済状況の改善策を香港政府は様々講じており、その一つに観

光を位置づけている。

- ・ 一国二制度と言われ、中華人民共和国の中にありながら、自由主義・資本主義経済を採用している。大陸と比較して規制が少なく、税金も安いため、そういう要素を通じて多くの企業や投資を呼び込み、海外との交流拠点や大陸とのゲートウェイといった位置づけにより、経済の活性化を図っている。
- ・ 香港に進出している外資系企業数として、日系企業は2024年時点で1,430社であり、9年連続で第1位である。これは銀行、商社、食品関係等幅広い分野でのビジネスの集積によるものである。
- ・ 日本からの輸出先としては、農林水産物・食品の輸出額が2020年まで香港が第1位であり、2025年の1月から6月までの累計額で見ると米国に次ぐ第2位であり、水産物に限れば第1位である。

また、香港には日本食レストランが多く、政府の統計では1,400軒ほどとされるが、実態としては2,000軒ほどあるのではないかとさえ見られている。

- ・ 2024年の香港からの訪日人数は過去最高の約268万人であり、人数としては第5位だが、人口比としては香港市民の3人に1人が訪日していることになる。第1位の韓国が6人に1人、また第3位の台湾が4人に1人であることを鑑みても非常に高い比率である。

また、訪日香港人の3割以上が過去に10回以上訪日しており、さらにコロナ禍後、訪日者数が回復するとともに、香港では、日本を第二の故郷と呼び、訪日を里帰りと称するといった様子が見受けられ、日本への愛着がうかがえる。そういう愛着が訪問客を増加させるとともに、日港間の貿易を支える土台ともなっている。なお、神奈川県は、香港市民の宿泊先としては第8位である。

- ・ 2024年の香港在留邦人数は2万2,877人で、全世界都市別で10位である。また、2023年の香港からの訪日留学生は過去最高の2,532人であり、人数としてはそれほど多くないが、人口比を鑑みると日港交流における大きな資本である。

○ 香港特別行政区における観光振興施策等については、次のとおりであった。

- ・ 香港政府は、行政長官の施政報告として、今後取るべき政策について毎年10月頃に発表しており、その中で、エコツーリズムの開発、新しい地域からの旅行者の呼び込み、より特色のある観光商品の開発、メガイベントの実施、伝統的な観光地の魅力の強化、AI等新技術の活用といった六つの要素を重点分野として位置づけている。
- ・ エコツーリズムの開発としては、香港には多くの島が存在するため、それらを巡るアイランドホッピングツアーの企画等が考えられている。
- ・ 新しい地域からの旅行者の呼び込みとしては、従来重視されていた欧米や日本に加え、中東やASEANといった地域からの呼び込みに力を入れるに当たり、例えば中東からの旅行者の呼び込みとして、タクシー乗車時にアラビア語が通じるようにするなどの言語対応の強化やハラルフードの提供といった方法が考えられている。
- ・ より特色のある観光商品の開発としては、例えばヨット観光やパンダの活用、文化観光の商品化といったことが検討されている。特に文化面においては、香港

は自身を東洋文化と西洋文化の出会う場として位置づけており、文化的なハブとしての香港をより成長させ、それを資本とした観光施策から経済発展につなげたいと考えている。例えば、元々伝統的な博物館があった地区に現代美術館であるM+及び中国の伝統的な美術品を展示する故宮文化博物館等を新たに建造し、西九龍文化地区として、文化的なハブとして開発が進められている。

- ・ メガイベントの実施としては、例えば2025年上旬に完成した啓徳スタジアムは、広大な会場であることから大規模なスポーツイベントやコンサートが開催可能であり、スポーツイベントとしては、イギリスのプレミアリーグの選手を招聘し、サッカーの試合を開催するといったことをしている。

また、会場については啓徳スタジアムではないものの、日本のミュージシャンが香港でコンサートを行うことも多い。その他、町なかあちこちの展覧会場で、食の祭典であるFood Expoやジュエリーショー等、年中を通して様々なイベントが開催されている。

- ・ 伝統的な観光地の魅力の強化としては、例えば近年は減少傾向にある、昔から営業していて、昔の香港としてイメージされる雑然としたイメージに合うような飲茶店をプロデュースしたり、伝統的な帆船によるクルーズ観光を企画したり、観光地のランキングを作成して売り出したりといったことや、また山が多いことやイギリスの伝統の影響により非常に多く存在するハイキングトレイルについても、伝統的な観光資源として活用されている。
 - ・ AI等新技術の活用としては、新技術を取り入れることで観光支援やサービスの品質向上を図る、いわゆるスマートツーリズムの取組に力を入れている。
 - ・ 上記6点の重点分野のほか、行政長官の施政報告においては、観光施策に係る方針の一つとして、大陸からの来港者を念頭に置き、大陸の自動車がそのまま香港に乗り入れられるような措置についても言及されている。ただ、これについては、面積の狭い香港において大陸の自動車を多く受け入れることは困難である等、様々な意見があるとのことであった。
- また、香港の交通法規はイギリスに倣ったものであるため、大陸とは異なる部分が多く、大陸の自動車を多く受け入れるのであれば、そういった点についても解決する必要がある。
- ・ 観光面における課題としては、香港からの訪日人数の増加に対し、日本から香港への旅行者数がコロナ禍前からいまだ回復しきっておらず、現在でもまだ6割程度までしか回復していないという点である。在香港日本国総領事館としては、日港間の人的交流の十分な促進を理想としており、そのために定期便の維持が重要と考えていた。日港間の国際定期直行便は、一週間当たり481便と多く運行しており、また4大都市圏が中心ではあるものの、地方空港にも新たな路線が開通しており、香港市民が日本の地方へ足を延ばすきっかけともなっていると考えられる。ただ、定期便の維持には、日港双方からの来訪者数の釣り合いが重要であるため、その辺りの不均衡は、定期便を維持する上での課題であった。

- マカオ特別行政区の概況については、次のとおりであるとのことであった。

- ・ 人口は約68万人であり、面積は33.3平方キロメートルと東京都世田谷区の約半

分に当たる。人口・面積ともに大きくないため、日本との関わりについても必然的に香港等と比較すると小さなものとなるが、例えば経済面における関わりとしては、東京都のゆりかもめのような軽軌道鉄道であるマカオＬＲＴについて三菱重工業が建設を担い、またカジノ向けのカード等を販売しているエンゼルグループは日本の企業であり、同分野において大きなシェアを誇る。なお、マカオに進出した日系企業としては、旅行代理店や大手メーカーが中心となっている。

- ・ マカオ在留邦人数は2024年10月1日時点で546人である。また、日澳間の旅行者数については、日本からマカオ及びマカオから日本双方において、それぞれ12万人程度である。
- ・ 経済としては、観光及びカジノ業が中心的となっており、構造としてカジノやＩＲへの依存が大きく、マカオ政府としては構造転換を試みているが、現状においては大きな変化はない。財政としては潤っており、1人当たりのＧＤＰは約7万3,000ドル（約1,100万円）で、世界第8位となっている。
- マカオ特別行政区における観光振興施策等については、次のとおりであった。
 - ・ 香港同様、マカオでも行政長官の施策報告があり、7月に発表された。観光施策としては、航空券等交通機関の割引を通じた外国人観光客の誘致や、東南アジアや北東アジアに観光業の拠点として観光局の出先機関を設けたりといったことを通じて、海外のマーケティングを強化していくことをマカオ政府としては考えている。
 - ・ 香港及びマカオに共通する課題として、両者が協力して観光振興に取り組むことによって今以上の効果を上げられるのではないかという点があり、行政長官同士での話し合いもなされている。マカオには世界遺産等の観光資源やポルトガル料理のレストラン等があり、またメガイベントの一つであるマカオグランプリも開催されるなど、マカオはマカオで観光振興に取り組んでいるのだが、実際問題として、マカオだけでなく香港についても併せて訪れる観光客が多いという現状がある。
- ・ また、香港・マカオ間については、1時間程度で移動できる従来の高速船に加え、2018年に開通した港珠澳大橋を渡るバスでも、途中での入境審査等の時間を除けば1時間程度で移動することができ、以前にも増して行き来がしやすくなっている。
- これら在香港日本国総領事館において最新の香港特別行政区及びマカオ特別行政区における概況及び観光振興施策等に係る内容を聴取したことにより、今後の当海外調査を実施する上で重要な予備知識となるとともに、本県の観光振興に係る今後の委員会審査をする上で、参考となった。

3 マカオ政府観光局

(1) 調査目的

マカオ政府観光局は、マカオ特別行政区の観光施策全般を所管する部局である。

マカオ特別行政区にとって、観光業は、同特別行政区における収入に占める割合の大きい重要産業であり、マカオ政府観光局は、海外へのプロモーション等様々な活動を通して、同特別行政区における観光業の活性化を支援している。

本県でも横浜、鎌倉、箱根や湘南地域、三浦半島地域等多くの観光地・観光エリアを有していることから、観光業は非常に重要な産業であり、さらなる集客及び地域活性化推進のために周遊型・滞在型観光の推進が重要視される一方、オーバーツーリズム対策についても議論がなされている。

そこで、マカオ政府観光局を訪問し、マカオ特別行政区における観光振興施策について調査することにより、今後の委員会審査の参考に資するものとする。

(2) マカオ政府観光局出席者

マカオ政府観光局長ほか

(3) 委員長挨拶



(4) マカオ政府観光局長挨拶

(5) 概要説明

次の内容等について、説明があった。

- ア マカオ特別行政区における観光業の概況について
- イ マカオ政府観光局による観光振興施策について
- ウ 観光面におけるマカオ特別行政区の国際的な評価について
- エ マカオ政府観光局の観光プロモーションの推進について

(6) 質疑応答

質 疑 マカオというとどうしてもカジノのイメージが強く、道中でも目にしたのだが、その近辺に住まわれている方もいると思う。日本でも今、構想があり、もしかすると日本とマカオとで顧客の取り合いになるということもある

かもしれないが、カジノの経済的なポテンシャルは高いと思っている。

日本におけるカジノ誘致に対する意見は、必ずしもポジティブなものばかりではなく、住民からの不安の声が結構あった。過去に横浜市が誘致しようと試みたもののうまくいかなかったという経緯もある。マカオにおいてカジノ産業は、住民から好意的に受け止められているのか、あるいは少しネガティブな側面もあるのか。当然、これだけ大規模な産業であるから、そこに従事している方も多く存在するとは思うが、住民のカジノに対する思いについて伺いたい。

応 答 マカオにおけるカジノに対する意識は、他国と少々異なる。マカオにおけるカジノ産業は100年以上の歴史を持っており、19世紀から始まっている。その頃と現在とでは、カジノの規模や内容は大きく異なるものの、カジノの経済面への影響は、それだけ昔から存在している。

カジノ業の経済効果は、マカオにとって重要なものであり、GDPの6割かつ政府の収入の8割を占める。また、就職口を提供している業界もある。

2002年以前のカジノ・ギャンブル業界は、単なる賭け事としての色彩が強かったが、多くの改革やライセンス制度の開始を経て市場の革新が起こっており、特にライセンス制度については、更新に当たり、ギャンブル以外の項目も提供しなければならないこととなっているため、ホテル業、飲食業その他ハイテク技術を利用したエンターテインメントやパフォーマンス等を盛り込むようになり、それにより多くの就職の機会をマカオ市民に与えることとなった。

カジノは何らかの形で社会にマイナスの影響を与えていたかもしれないが、マカオにおいては、政府、大学及びカジノ運営会社が昔から協力し合っており、単にお金を勝ち取るためのものではなく、エンターテインメントの一種として、責任あるギャンブルを推奨している。

なお、ギャンブル依存症への対策として、法律により、そういった者については、ギャンブル会場への立入禁止のリストに載せることができる。

以上のように、マカオにおけるギャンブルビジネスの発展は、社会全体の発展を考えた上で展開されている。

質 疑 マカオは人口72万人ほどであったと思うが、神奈川県で言うと、県全体では920万人になるが、河本委員の地元の相模原市が70万人くらいで、同規模と認識している。

財政の黒字がたしか92億マカオ・パタカということで、日本円で1,600億円になり、また高齢者が16%ほどと、高齢化が進んでいるようだが、税の再分配がインフラにも行っており、立派な橋梁もあるわけだが、少子高齢化が進行する中、カジノや観光業による税収をどう再分配しようと考えているのか。

応 答 マカオにおける高齢者に対する福祉は、非常に充実している。

60 歳または 65 歳以上の高齢者は、社会保険基金を受け取ることができる。65 歳以上になってから受け取ることもできるが、60 歳で受け取る人も多い。さらに、60 歳からは毎月、政府から 4,000 マカオ・パタカ（約 7 万円）※2025 年 8 月 19 日（火）時点が給付され、様々な敬老基金等が年間 1 万マカオ・パタカ（約 18 万円）、さらに ID カードを所有するマカオ市民でさえあれば毎年 1 万マカオ・パタカ（約 18 万円）を受け取れるという制度が長年続いている。そのほか、高齢者においては、医療が無料で享受できたり、バスや映画、劇などの利用料が無料であったりといった保障もある。

現在、マカオの人口に占める 65 歳以上の割合は 12% であり、我々としても高齢化対策は重要視している。

一方、マカオは少子化の問題にも直面しているため、今年から、新成人に対して保障金を出す計画が開始されたところである。

質 疑 三つ、質問をさせてほしい。

一つ目は、もしもマカオにとって歴史のあるこのカジノというものがなかったならどうなっていたか、といったことを考えたことはあるかどうか。

二つ目は、今後、マカオと同じようにカジノを誘致しようとする町や国があったとしたら、その町や国に対してどういったことを伝えたいかということ。

三つ目は、マカオを訪れる人々として、陸続きで来られるということで、大陸から訪れる人が特に多いようだが、中国も広い国なので、遠方から飛行機を利用して来るということもあるわけで、そういった人々に対して、マカオ政府として何か配慮していたり、事業者にお願いしていることはあるか。

応 答 仮説として、歴史的な存在としてのカジノがマカオになかった場合、もちろん、他の要素で発展する余地は考えられる。逆境の中に、自分たちの生存のために何らかの方法は考えてきたと思う。

二つ目の質問、カジノ業を誘致する町に対するメッセージだが、カジノ業の誘致は、トレンドであると思う。中東の都市や、少し前にはタイもカジノを誘致する話が出て、一旦保留になっているようだが、傾向だと思う。けれども、誘致する町は、住民の福祉とうまくバランスを取り、経済的なメリットだけを考えるのではなく、それを通じて住民が福祉を得られように、短所よりも長所を必ず強い形で持っていくしかないと思う。

三つ目、中国からの来訪客については、もう全世界で取り合っている状況かもしれないが、マカオは、非常に幸いなことに陸続きという意味で来訪があることに加え、遠方の都市からは飛行機での来訪が可能である。しかし、海外からの来訪客に関しては、今後 2 年間の大きな課題であると思う。マカオは既に航空会社と様々な提携をしており、直接マカオまで飛ぶマカオ航空と連携しているほか、香港経由での来訪客についてもまた、常に観光局の様々なプロモーションの傘下に入っている。一つのプロモーション手段とし

て、マカオを訪れる予定日から 7 日以内の香港への航空搭乗券の半券を持っている来訪客に、マカオ行きの片道の無料フェリー券やバス券を提供するという試みを今年末まで実施している。

質 疑 カジノはお金が動くので、様々な人を引き寄せると思うが、反社会的勢力に対する防御の仕方や警察との連携について教えてほしい。

応 答 カジノにより、当然、多額のお金が動くため、金融に関するコントロールは非常に厳しく行われている。

一定の金額以上の持込については金融管理局への申請と登録が必要で、そのほかに国安局の下の部署である金融情報局がそういった怪しいお金の動きを即座に把握し、マネーロンダリング等の防止を行っている。

また、全てのカジノ内には、警察が 24 時間駐在しており、治安を保っている。

そういった人手がかかるもの以外にも、テクノロジーを用いて町の治安を保つという面では、監視カメラが町なかに多く設置されており、犯罪があれば情報がすぐに集められるようなまちづくりをしている。

質 疑 3 点、お伺いしたい。

まず、先ほど、プロモーションポリシーについて四つほどご説明いただいたところである。金融のことや MICE のこと、ヘルスアンドウェルネスなど色々あったと思うが、四つある分野のうちどこを重点的に育てたいか、割合などあればお伺いしたい。

次に、その中の特に MICE 、ビジネスイベントの誘致について、やはり人材の育成だったり人脈をつくっていくといったことが非常に重要だと思うが、その点についてどのような取組をされているのか。

最後に、私の在住している鎌倉市では、オーバーツーリズムが問題となっている。マカオでは現状どのようになっていて、対策等どのように取り組まれているのか教えていただきたい。

応 答 一つ目の質問については、まだ統計を作成しておらず、例えば金融分野については件数は少ないかもしれないが金額が大きく、また発展するのに時間がかかる分野も様々あり、比較するのは難しい。様々な要因が関わってくるので広域的なデータは出でていないが、マカオ政府としては、観光とギャンブル等その他の発展は 4 対 6 を目標としている。

次に、MICE の招聘に関しては、直接的には招商局が担当しており、観光局はアシストに留まるのが現実で、様々な大会の招聘についても協力して行っている。年間で千以上の項目について開催しており、常にネットワークづくり、人脈づくりをしており、カジノ運営会社 6 社とも常に緊密な連携をして、様々な分野での招聘を考えている。そのほか、関係づくりとしては、様々な商会・協会にも積極的に国際的な会議や展示への出展をしてもらい、

よりマカオをアピールしていく。

三つ目の質問について、鎌倉市とは、ともに東アジア文化都市として選ばれた仲間として、たくさん交流させてもらっている。鎌倉の市長と副市長もマカオを訪問し、我々も鎌倉市を訪問した。オーバーツーリズムに関しては、全世界で大きな話題となっているところで、マカオにおいては、人気のエリア以外にも様々な魅力的なスポットがあり、様々な体験ができるのだとということを常にアピールし、同じ時間帯で同じ地域に人が集まりすぎないようにPRを推進している。

またインターネット上でも、アプリを開発し、訪問客の混雑具合を常にリアルタイムで把握できるようにしており、現在は100以上の観光スポットの混雑具合が分かるようになっている。

質 疑 例えば、ザ・ベネチアン・マカオがラスベガスのサンズであったり、そのほかにもMGMマカオのように外国の資本を入れていると思うが、これだけすばらしいカジノに育て上げたという今の現状に対し、外国資本を取り入れていく過程と、そこに問題点があったならば教えてほしい。

応 答 国内資本でも外国資本でも、誘致する際は、やはり投資のコストに対する見返りを相手方も計算すると思う。

ただ、2002年のカジノライセンスの開始時点でのマカオの経済規模は、現在と比較できなくくらいに小さく、今後の発展計画はこういう見込みがあり、こういうチャンスがあるというふうに、当時はそれしか提供ができなかった。そのため、そういう見込みに対してそれを実現できる確信・信頼が得られるようなことを条件に交渉をしていた。

質 疑 ちょうど今から20年から30年前かと思うが、ラスベガスについて、ラスベガスイコールギャンブル、イコール大人の娯楽という中で、ずいぶん利用客が少なくなるという現象があった。そこで、ラスベガスは、マクドナルドではないが、子供たちに対しての戦略を始めたわけだが、カジノと子供の関係については、どういうふうに考えるか。

応 答 2002年のカジノライセンスの改革の際、新しい開発のチャンスを誘致できたが、その際も、造られた施設は、幅広い年齢の方々が使えるような施設であり、さらに2022年の契約更新の入札に当たり、非ギャンブルの要求を多く加えたため、開発タームの中に様々な要素が組み込まれた。政府にとっては、やはり若者の発達に関しては、力を惜しまない分野と位置づけている。なお、今は夏休み期間中であるため、子供の芸術祭など様々なイベントを開催し、青少年や子供たちの心身の発達ができるよう常に努めている。

また、2002年のカジノライセンスの開始によって多くの外資系が参入することで、ラスベガスの経験が多くもたらされたことも、マカオの発展を加

速させたと言える。



(7) 調査結果

- マカオ特別行政区における観光業の概況については、次のとおりであった。
 - ・ マカオ特別行政区設立から2025年上半期まで、20年以上の観光振興の歴史があり、その中で、年間観光客数は1999年時点での約660万人から2019年に至ってピークとなり、4,000万人に達した。コロナ禍での減少はあったが、その後急激に回復し、2024年時点で3,500万人とコロナ禍前の9割近くまで回復しており、2025年についても、前年度予想ではコロナ禍前までの水準に戻ると推測されており、上半期時点で1,900万人に達している。
 - ・ マカオへの来訪客について考える上で節目となる年として、2002年にカジノの運営権が解放され、1社独占ではなく、複数社の経営が許されるようになったことが挙げられる。また、2003年には、中国政府によって大陸から香港への個人旅行が許可されるようになり、大陸からの来訪客数の増加につながった。
 - ・ 来訪客の国籍としては、71.6%が大陸からで、19%が香港から、2.4%が台湾からとなっており、残り7%を占める海外からの来訪客については、韓国のほか、フィリピン、インドネシア、マレーシア、タイといった東南アジアや日本といった近隣諸国からが多く、遠方からの来訪については、アメリカ合衆国からの来訪客が多い。
 - ・ ホテルについては、部屋数が2019年の4万1,148部屋から4万7,091部屋にまで成長している。単純な部屋数では2023年の4万8,405部屋がピークだが、大規模なホテルが部屋の再編等を行った関係で、数としては翌年以降減少となっている。ランクとしては、全150軒のうち安価なホテルが45軒、星つきのホテルが105軒となっており、多様な収入層の顧客を受け入れられるようになっている。なかでも五つ星及び五つ星デラックスのホテルが特に多く存在し、40軒とホテル全体の6割を占める。なお、入居率については2019年時点で9割に達しており、コロナ禍を経て、2023年時点で既に8割以上まで回復しており、2025年上半期時点でほぼコロナ禍前の水準に戻っている。
 - ・ カジノ等を除く来訪客の消費額については、2019年時点で一人当たり203.3米ドルで、2024年時点で269.6米ドルと約3割向上しており、2025年上半期時点で248.6米ドルに達している。なお、消費の内訳としては、45.8%がショッピング

グ、23.8%が宿泊、23.2%が飲食、その他のうち4.2%が交通機関に費やされている。

- マカオ政府観光局による観光振興施策については、次のとおりであった。
 - ・ 1プラス4と呼ばれる政策を推進しており、旅行・観光業を中心に、健康産業、金融サービス産業、科学技術産業、そして会議・展示と貿易及び文化・スポーツ産業といった四つの産業分野の発展を促進させるための取組を行っている。
 - ・ 観光プラスアルファの具体的な取組として、例えば観光プラスエンターテインメント及びパフォーマンスということで多くのコンサートが開催されていたり、スポーツイベントやMICEの開催等、様々な連携が行われている。
 - ・ 展覧会関係については、マカオ政府観光局が毎年、旅行観光博覧会を開催しており、当初メインであったB to Bに加え、近年は一般客の参加できる要素も多く盛り込んでおり、例えば訪問客が食品や酒類等を購入するなどといった楽しみ方ができるようになっている。
 - ・ 観光を盛り上げるメガイベントは、様々あり、7月にはマカオ国際アートビエンナーレ、9月と10月にはマカオ国際花火大会、11月には中国の全国運動会、12月にはライトアップマカオといった具合に、年中どの時期にマカオを訪れても楽しむことができ、観光振興に寄与している。
- 観光面におけるマカオ特別行政区の国際的な評価については、次のとおりであった。
 - ・ マカオの歴史的な広場や建造物について2003年にユネスコへの申請が行われ、2005年にマカオ歴史市街地区として、世界遺産として登録された。
 - ・ 2017年には、ユネスコの食文化創造都市に認定された。
 - ・ 2025年には、東アジア文化都市に選出された。
- マカオ政府観光局の観光プロモーション推進の取組については、次のとおりであった。
 - ・ インターネットを利用したプロモーションとしては、様々なプラットフォームにおける合計28個、フォロワー数1千万人を超えるSNS公式アカウントを駆使したり、世界的に有名なインフルエンサーと連携をする等の取組をしている。また、BBCやCNN、ディスカバリー・チャンネル、エコノミスト、フォーチュンといった世界的メディアとの連携により、コンテンツを取材してもらい、海外への露出を高めている。
 - ・ インターネット上以外においても、海外で開催される様々な展示会や説明会への参加という形でのプロモーションも積極的に実施している。
- これらマカオ政府観光局において聴取したマカオ特別行政区における最新の観光振興施策に係る内容を聴取したことにより、本県の観光振興に係る今後の委員会審査をする上で、参考となった。

4 ギャラクシー・アリーナ

(1) 調査目的

ギャラクシー・アリーナは、ギャラクシー・エンターテインメント・グループが運営する統合型リゾートであるギャラクシー・マカオ内に位置するアリーナである。

統合型リゾート内に位置するため、同施設の近辺には、ホテルやレストラン、会議場や展示場、オーディトリアムといった多様な施設が存在している。

本県にも、県を代表する文化施設として神奈川県立県民ホールが設置されている。1975年に竣工した同ホールは、建て替えによる再整備に伴い長期休館中であり、再整備の方針等について基本構想策定委員会において現在議論が進められている。同施設近辺には、シルクセンター国際貿易観光会館や産業貿易センタービルといった各種施設が存在し、周辺地域全体としては、横浜市が山下公園通り周辺地区まちづくりビジョンを策定しており、歴史的・文化的特徴を多く有する同地区の今後を見据えたまちづくりを計画している。このことから、県民ホールに関しても、周辺環境との調和について考慮した上で、再整備を含め、今後の文化振興をより推進していくための取組が求められることが想定される。

そこで、ギャラクシー・アリーナを訪問し、周辺環境との調和を考慮した文化振興等について調査することにより、今後の委員会審査の参考に資するものとする。

(2) ギャラクシー・アリーナ出席者

ギャラクシー・エンターテインメント・グループ Head of Hotels
and Lifestyle Development ほか

(3) ギャラクシー・エンターテインメント・グループ Head of Hotels and Lifestyle Development 挨拶

(4) 委員長挨拶



(5) 概要説明

次の内容等について、説明があった。

- ア ギャラクシー・マカオの概要について
- イ ギャラクシー・インターナショナル・コンベンション・センターの概要について
- ウ ギャラクシー・アリーナの概要について

(6) 施設内視察



(7) 質疑応答

質 疑 統合型リゾートのポテンシャルや見通しについては、どう考えているか。また、行政は統合型リゾートとどのような関係性を持っていけばよいのか。

応 答 日本の様々な街を訪ねたが、最もポテンシャルを感じるのは関西地方であり、十分な土地や人材があると思う。統合型リゾートは、日本においてもポテンシャルがあると思う。日本は観光地として人気で、アジア人の傾向に違わずギャンブルが習慣として根づいているため、きっと成功すると思う。

マカオ市民にも日本の文化・食文化は非常に好まれており、ギャラクシー内にも日本的な要素のある施設・店舗がある。今後、日本で統合型リゾートを運営できたなら、マカオや香港、中国の要素を取り入れることで、両国文化の交流やコミュニケーション、地元人材の育成にも協力させてもらいたい。自治体や一般市民に対しても、単なる影響のみでなく、育成という意味で働きかけ、皆で共同で成功させたいという戦略は持っている。

統合型リゾートの効果は、リゾート内に留まるものではなく、例えばギャラクシーには 10 のホテルがあり、毎日満室となっているのだが、その影響は、自分たちのビジネスを越えて、周囲のホテルやリテール、飲食店への影響ともなり、一緒に成功している感じではないかと思う。今後、日本でも統合型リゾートが運営できたなら、地域の人々だけでなく、さらにその周囲の地域の住民の生活にも影響を与えることで、より一層、成功させられると思っている。統合型リゾートと外部との、お互いの関係が最も重要だと思っている。

質 疑 今回の視察は、記憶に残る視察になったと思う。日本人はおもてなしという概念をとても大事にしているが、今対応してくださっている皆様はじめスタッフの方々からは、その日本人以上とも言えるとても大きなおもてなしを頂いたと思っている。

物事を成功させるためには、パッション、ミッション、アクションが必要だといつも思っている。情熱、使命感、行動力ということだが、皆様としてはどういった信念・思いを持って統合型リゾートをここまで築き上げたのか。

応 答 ギャラクシー・マカオには、アジアンハートという信念がある。スタッフの皆も毎日アジアンハートで、日本同様、おもてなしというサービスの精神で、お客様にサービスをさせてもらいたいと思っており、私自身にとっての信念でもある。

中国・マカオだけでなく、日本や韓国、東南アジアの国々といったアジアの顧客の生活上の習慣には、似た部分が多くあり、そういうアジアンハートを世界中のお客様に日本のおもてなしのように紹介していきたいというのが、私ないしギャラクシーの唯一の信念である。

ただいま頂いた質問は、非常に嬉しかった。それというのも、ただいま同席している者だけでなく、スタッフの誰に聞いても、皆絶対にアジアンハートという信念を答えられると思う。



(7) 調査結果

- ギャラクシー・マカオの概要については、次のとおりであった。
 - ・ ギャラクシー・マカオは、ギャラクシー・エンターテインメント・グループによって運営される統合型リゾートである。2002年のカジノライセンス制度の開始でカジノ経営権の1社独占が廃止されたことにより同グループの参入が実現し、コロニア地区・タイパ地区間に造成された埋立地であるコタイ地区に2011年にオープンした。なお、同地区では、2007年のザ・ベネチアン・マカオのオープン以来、ギャラクシー・マカオを含む統合型リゾートの開発が盛んに行われてきた。
 - ・ マカオ特別行政区における最大級の統合型リゾートであると同時に、五つ星ホテルを最も多く有する統合型リゾートであり、日本発の五つ星ホテルとしてはマカオ唯一であるホテルオーネークも存在する。また、インターナショナル・ゲーミング・アワードの統合型リゾート部門で最多の受賞歴を誇り、トラベル、レジャー、ラグジュアリー等他部門においても多くの賞を獲得してきた。
 - ・ 宿泊施設のほか、会議場兼展示場やアリーナ等で構成されるギャラクシー・インターナショナル・コンベンション・センターやファッショントア・美容等生活用品ブランドの集まるギャラクシー・プロムナード、ミシュランガイドに掲載される料理店から本格的な地元料理店まで取りそろえたレストラン等、様々な施設が存

在する。カジノ施設も有するが施設全体の3%未満であり、それ以外の様々な施設がギャラクシー・マカオ全体の97%以上を占めている。

- ギャラクシー・インターナショナル・コンベンション・センターの概要については、次のとおりであった。
 - ・ ギャラクシー・マカオ内に2023年にオープンした最新鋭のMICE施設であり、ギャラクシー・アリーナのほか、会議場兼展示場、会議室、オーディトリアムといった施設で構成される。
 - ・ 会議場兼展示場は、会議場や展示場、バンケットといった形での活用が可能な多目的空間である。天井までの高さは9メートルで、空間を遮る柱はなく、会議場として使用する際は約4,000平方メートル、展示場としては約1万平方メートルもの床面積を使用可能であり、イベントの規模に合わせてパーティションにより最大三つのスペースに区切ることができ、スペースごとにオーディオ・ビジュアル機器の運用が可能となっている。搬出入車両のアクセスもよく、さらにプログラム可能な天井LED照明のほか、高解像度の壁面スクリーンにより、イベントに応じた雰囲気を演出することができる。
 - ・ 大規模イベント向けの会議場兼展示場のほかにも、3,500人以上を収容可能な、ボールルームを含む様々な広さの33部屋の会議室があり、用途によって使い分けることができる。
 - ・ センター内には、大規模なコンサートが可能なギャラクシー・アリーナのほかにも、650席のオーディトリアムが存在し、最新のオーディオ・ビジュアル機器や音響、照明、全自動吊物機構及びプレゼンテーションシステムが用意されている。特に音響については、壁面を自動で稼働させることで調整する仕組みとなっている。コンサートや講演、各種会議等の開会式、新商品紹介のプレゼンテーションなど様々な形での利用を想定している。
 - ・ ギャラクシー・マカオに多数存在するホテルの中でも、特にアンダーズ・マカオについては、ギャラクシー・インターナショナル・コンベンション・センターに直結しているため、ビジネス・観光客問わず、同センターへのアクセスが非常に便利となっている。
- ギャラクシー・アリーナの概要については、次のとおりであった。
 - ・ マカオ最大の室内アリーナであり、1万6,000席を備え、センターステージやエンドステージ、ボクシングリング等、イベントに合わせて構成することが可能となっている。さらに、最新技術による音声・視覚演出が可能となっており、同施設の存在により、ギャラクシー・マカオは、2024年以降、マカオで最も多くのコンサートを開催した統合型リゾートとなっている。
 - ・ 統合型リゾートであるギャラクシー・マカオ内に立地するギャラクシー・インターナショナル・コンベンション・センター内に位置する施設であることから、ホテル等統合型リゾート敷地内の様々な他施設と調和した文化振興に寄与していると言える。
 - ・ ギャラクシー・エンターテインメント・グループは、世界規模のスポーツイベントの企画・開催・協賛も行っており、ギャラクシー・アリーナにおいて、これ

まで卓球 I T T F ワールドカップやバレーボールネーションズリーグ、U F C ファイトナイト・マカオ等の試合が開催されてきたほか、中華人民共和国の全国運動会における卓球大会の会場としても提供されるなど、コンサートだけでなく、大規模なスポーツイベントの会場としても活用されている。

- これらギャラクシー・アリーナにおいて周辺環境との調和を考慮した文化振興等に係る内容を聴取するとともに、同アリーナ及び周辺施設を現地で視察したことにより、本県の文化振興に係る今後の委員会審査をする上で、参考となった。

5 マカオ文化センター

(1) 調査目的

マカオ文化センターは、マカオ文化局の所管する舞台芸術施設であり、世界的に有名な作品の上映を含む様々な公演が実施されるほか、市民の文化芸術活動のために施設の貸出しを行うなど、地域における文化振興に寄与しており、さらに近年、劇場を新設しており、さらに地域に貢献する文化振興とするため、ハード面においても改善に努めている。

本県においても、県を代表する県立文化施設として神奈川県立県民ホールが長年にわたり同様の役割を担っていたが、現在、建て替えによる再整備について、基本構想策定委員会において議論が進められているところである。

そこで、マカオ文化センターを訪問し、公立施設におけるハード面の利活用・改善や再整備等による文化振興について調査することにより、今後の委員会審査の参考に資するものとする。

(2) マカオ文化センター出席者

C u s t o m e r S e r v i c e ほか

(3) 概要説明

次の内容等について、説明があった。

- ア マカオ文化センターの概要について
- イ 総合劇場の特徴と活用について
- ウ ブラックボックス劇場の特徴と活用について

(4) 施設内視察



(5) 質疑応答

質 疑 総合劇場の反響板については、コンピュータ制御で動くのか。

応 答 半分自動、半分手動となっている。

質 疑 日本の子供向けミュージカルを広東語で上演したことだが、字幕の表示については行っていたのか。

応 答 字幕の表示も行った。ただ、子供向けのパフォーマンスであっため、字幕中心ではなく、劇中歌含め、広東語で上演した。

質 疑 総合劇場のステージについて、なぜこんなにも広いのか。

応 答 ステージの奥行については、演出に使用する場所は手前半分であり、残りの奥半分のスペースについては、セット転換の待機場所として用いられる。

質 疑 この施設は文化局の所管施設だと思うが、実際の運用についてはどこが行っているのか。

応 答 様々なイベントのために、施設をレンタルするということはもちろん行っているが、管理自体は、自局で行っている。

質 疑 総合劇場の観客席については、ほとんど埋まっているのか。また、どのような講演が行われているのか。

応 答 9割は埋まる形である。行われてきた講演についてだが、総合劇場の外の廊下には、これまでに行われてきたポスターが張られており、さながらタイムカプセルのようになっているのだが、そこからは、過去約25年において、ブロードウェイ系のミュージカル、ピーターパンのような子供向け作品、交響楽団の公演、ダンス公演、チャイニーズオペラ等、様々な公演が行われてきた様子が確認できる。

質 疑 日本から来た子供向けミュージカルの話があったが、ほかに日本の作品が上演されたことはあるか。

応 答 ちびまる子ちゃんが上演されたことがある。

質 疑 オープンから25年もたっているということだが、メンテナンスや維持補修は結構行っているのか。

応 答 部分的な補修・更新については、隨時行っている。照明や音響、舞台上のバーなどの更新をしている。

質 疑 ブラックボックス劇場を増設したことだが、1年間でどの程度使われているのか。また、使用料はどの程度なのか。

応 答 増設してから2年程度が経過した現時点において、7、8割程度である。なお、リハーサル時点でセットを組むため、2週間ごとの貸出しとなる。

使用料は、数百香港ドルから数千香港ドルで、サポートスタッフや機材も使用できる。なお、総合劇場のほうは、ブラックボックス劇場と比べると若干高価だが、それでも、劇場の貸出料金としてあまり高価な方ではない。また、パフォーマンスによっては、当施設が支援する場合もある。

質 疑 総合劇場について、どんちようはあるのか。

応 答 ある。黒い幕が設置されている。



(6) 調査結果

- マカオ文化センターの概要については、次のとおりであった。
 - ・ 1999年にオープンした文化施設であり、マカオ政府文化局が所管する。総合劇場や小ホールといった施設を有し、さらに2023年には、ブラックボックス劇場という新たな劇場が増設された。
 - ・ 来場者は、まず1階のロビーを通り、目的の施設へ向かう。施設の中心的なホールである総合劇場の入り口は2階に位置する。駐車場は地下1階にあるほか、スタッフ用のフロアがグランドフロアに存在する。また、楽団用の練習室が4階に存在する。
 - ・ 舞台の上演等以外にも施設は活用されており、観察時には、子供向けのイベントとして、サマーキャンプとして施設内で一泊するというものが実施されていた。
- 総合劇場の特徴と活用については、次のとおりであった。
 - ・ 約1,100席を有し、ミュージカルや交響楽、演劇、小規模のリサイタル等、様々なパフォーマンスに利用することができる。
 - ・ 反響板によって、用途に合わせた音響の調整が可能となっている。上部にも

反響板が存在することから、箱のような形にすることもでき、より音を反響させることができる。

- ・ 舞台照明については、ブリッジを上下移動させることで、劇に合わせてフェイ丝ライトを当てる等調整することができる。
 - ・ 多用途での利用を想定しており、客席後方には、同時通訳のブースがあり、パフォーマンスのみならず、会議等の用途で使用することもできる。
 - ・ 前方4列の椅子は、取り外すことができ、楽団90名分のオーケストラピットとしてスペースを用意することが可能である。
 - ・ 搬入の利便性も担保されており、ステージ裏の搬入口に車をつければ、そのまま搬入することができる。
 - ・ 総合劇場で行われた公演の例として、日本関連のパフォーマンスとしては、2024年12月に日本の劇団による子供向けミュージカルであるジャックと豆の木が劇中歌の歌詞含め広東語吹き替えで上演された。
- ブラックボックス劇場の特徴と活用については、次のとおりであった。
- ・ 2023年に増築されたブラックボックス劇場については、サイズの異なる二つのホールが存在し、収容人数140名の劇場がボックス1、160名の劇場がボックス2と呼ばれており、ともに照明・音響・舞台等を自由に配置できることが特徴となっている。
 - ・ ボックス1については、多様なバーがステージ上にぶら下がる総合劇場とは異なり、上部にはネットが張られており、そこに人が登り、照明等の機材を自由に設置することが可能となっている。公演によって様々なセッティングが可能であるため、ステージは1面でなく3面や4面で構成してもよく、センターステージを取り囲むように席を配置することも可能で、さらに劇場上部に登ってパフォーマンスをすることも可能である。そのため、実験的な演劇にも適しており、過去に上演されたある作品では、ホール内をバーに見立て、バーの客のように観客をテーブルに着かせ、役者はその周囲を歩き回って劇を進めるという形を取っていた。
 - ・ ボックス2については、ボックス1と異なり、上部にネットが張られていないため、人が上を歩くことはできないが、照明の配置については、吊り下げ用ワイヤーのポイントを移動させ、そこからワイヤーを下ろして照明をぶら下げることで、自由な配置が可能となっている。暗幕を開けることで、隣接する窓際のスペースも利用可能であるため、夕日等日光を演出に組み込むことも可能で、実際、ジャズバンドの演奏でそういった形を取ったことがあった。
- これらマカオ文化センターにおける公立施設におけるハード面の利活用・改善や再整備等による文化振興に係る内容を聴取するとともに、同センター内の特徴的な施設や設備を現地で視察したことにより、本県の文化振興に係る今後の委員会審査をする上で、参考となつた。

5 マカオグランプリ博物館

(1) 調査目的

マカオグランプリ博物館は、マカオ特別行政区を舞台として開催される世界的に有名な市街地レースであるマカオグランプリに関する資料の保存・展示等を行うマカオ政府観光局所管の博物館であり、マカオに根づいた歴史あるモータースポーツイベントであるマカオグランプリの魅力を、海外からの来訪客を含む観光客へ広くアピールするとともに、マカオ市民に対するモータースポーツ振興を行っている。

本県においてもモータースポーツ関連のイベントが開催されるとともに、県議会においても、モータースポーツ振興議員連盟が設立されたところであり、本県におけるモータースポーツ振興が推進されているところである。

そこで、マカオグランプリ博物館を訪問し、モータースポーツ振興について調査することにより、今後の委員会審査の参考に資するものとする。

(2) 出席者

Documentほか

(3) 概要説明

次の内容等について、説明があった。

- ア マカオグランプリの歴史について
- イ マカオグランプリ博物館の概要について
- ウ マカオグランプリ博物館の展示構成について

(4) 施設内見学



(5) 質疑応答

質 疑 マカオグランプリ博物館の建物は、どこが造ったものなのか。

応 答 元々は、ポルトガル政府がマカオグランプリ 40 周年を記念して造ったものである。現在の建物は、マカオ政府観光局が 2021 年に改装したものである。

質 疑 1 年での来場者は、どれくらいの人数になるのか。

応 答 時期によって異なるが、現在であれば、夏休みの時期なので、1日 1,200 人程度を見込んでいる。ただ、ピークであれば 2,000 人から 3,000 人ほど見込める。なお、例えば 10 月 1 日などは、中国にとってゴールデンウイークである国慶節なので、そういう日であれば、それくらいの人数は余裕で見込める。

質 疑 マカオグランプリというイベントがあることに対して、マカオの住民は、どのような思いでいるのか。イベントとして非常に盛り上がる所以喜ばしいかもしれないが、一方で、道路が使えなくなったりと、規制が生じてしまう面もあることから、住んでいる人たちにとっては、よい面も悪い面もあるのではないかと思うが。

応 答 個人的な感覚としては、全然よいのではないかと思う。

交通規制もあるが、昔よりずっとましたと思う。自分が子供の頃などは、交通規制の悪影響として、例えば通学において本来なら 30 分で済むところが 1 時間半かかってしまうなどといった不便があった。今では、観光の中心であるカジノ等がほぼタイパ地区のほうに移っていることから、通勤等への影響は少なくなっている。

見て楽しむこともできる。例えば中学生などであれば、特に団地のほうからそういった車が走っているところが見えて、わくわくするわけである。自分の母校は、かつての総督府の隣にあり、レースの時期になれば、皆が窓を開けて、レースを味わうことができた。

開催期間 1 週間程度のうち、2 日間が練習等に当てられる。運営側として最も困ることは、時間的な制約についてである。毎年、レースの前には、必ず道の整備をしなければならず、1 か月程度の時間をかける必要があるが、時間を見つけるのは困難である。なお、マカオは日本と異なり、夜に道路の整備をすることができない。

質 疑 整備にかかる時間や費用面について教えてほしい。

応 答 そこまで詳しくないのだが、安全性の影響を鑑み、大体、レース時に加速地帯となる部分を整備のメインとして行っている。また、山側のほうも、かなり整備に時間がかかるが、そちらについてはふだんの車の交通量が少ないので、そこまでの影響はない。

費用に関することとしては、工事の発注において、契約可能な業者皆に見積書を公開形式で提出させるというプロセスを経るようにしている。また、AAMC というマカオのレース分野における中心的な会員会のような存在があるので、そういうところと契約するなどして準備を進めていく。



(6) 調査結果

- マカオグランプリの歴史については、次のとおりであった。
 - 1954年10月30日及び31日に初めてのレースが開催された。レーサーと15台ほどのマシンがマカオを訪れ、テレビもない時代に約2万人の観客が集まり、大変盛況だったとのことであった。
 - 当時は保有車両数が300両もない小さな町であったマカオだが、マカオグランプリの開催により、モータースポーツにおけるアジア初のグランプリの開催地として注目を集めようになつた。初期費用は、ファンから得たり、あるいは企業から協賛で得ており、グランプリ発展の過程で、当時のポルトガル・マカオ政府からも直接支援を得られるようになり、現在では、マカオ政府が主催者側に回つており、2025年には、72回目の開催を迎えることとなった。
 - F1への登竜門のような意味合いを持つグランプリでもあり、イルトン・セナやミハエル・シューマッハといった名立たるレーサーがF1へとステップアップする前にマカオグランプリを経験しているというケースも多い。
- マカオグランプリ博物館の概要については、次のとおりであった。
 - 1993年に、マカオグランプリ40周年を記念する形でオープンした。2021年にリニューアルされた際、併設されていたワイン博物館と分離するとともに、リニューアル前の約6倍に相当する延べ床面積1万6,000平方メートルとなり、展示についてもより充実することとなった。
- マカオグランプリ博物館の展示構成については、次のとおりであった。
 - 日本の建築における1階に相当するグランドフロアは、エントランスとなっている。ギアサーキットがジオラマとして再現されるなどしており、ミュージアムショップについてもこの階に位置する。
 - 1階においては、4輪車によって実施されるいわゆるマカオグランプリの歴史についての展示がされており、初期からF3時代まで、功績を残したマシンの実物やドライバーをかたどった、ろう人形が展示されるなどしている。また、F3マシンの操縦を疑似体験できるシミュレーターも設置されている。
 - 2階においては、1967年から開催された2輪車によって実施されるマカオモーターサイクルグランプリについての展示がされており、モーターサイクル操縦を疑似体験できるシミュレーターも設置されている。

- ・ 地下1階においては、ツーリングカーによって実施されるマカオギアレースやスポーツカーによって実施されるマカオG Tカップについての展示のほか、体験コーナーが広く設けられており、VRによる360度レース体験映像のほか、レースコントロールルームやピットウォール、風洞実験などといったレーシングマシンそのもの以外のレースに係る要素についても体験することができる。
- これらマカオグランプリ博物館においてモータースポーツに係る歴史的な展示やシミュレーター等によるモータースポーツ本場の国ならではの体験の提供といった取組を聴取するとともに、現地で視察したことにより、本県のモータースポーツ振興に係る今後の委員会審査をする上で、参考となった。

6 香港文化中心

(1) 調査目的

香港文化中心は、香港政府文化体育及旅游局に属する康樂及文化事務署の所管施設であり、世界的に有名な舞台作品の上演を含む様々な公演が実施されるほか、市民の文化芸術活動のために施設の貸出しを行うなど、地域における文化振興に貢献している。また、同施設内には、歴史あるパイプオルガンが設置されているなど、文化施設としての歴史的価値も有している。また、尖沙咀（チムサーチョイ）という香港最大の繁華街に位置しており、周辺には同じく康樂及文化事務署の所管施設である香港太空館や香港芸術館といった文化施設も位置する等、文化体験を求める人々の誘客という観点において、非常に恵まれた立地にある。

本県においても、県を代表する文化施設として神奈川県立県民ホールがあるが、立地に関する特徴と併せて、香港文化中心の特徴は、基本構想策定委員会において議論が進められている県民ホールの特徴に近しいものであると言える。

そこで、香港文化中心を訪問し、市民の文化活動における公立施設の利活用及び周辺環境との調和を考慮した文化振興等について調査することにより、今後の委員会審査の参考に資するものとする。

(2) 出席者

Senior Manager (Venue)、Senior Manager (Marketing)、Senior Manager (Piazza and Waterfront Management)、Manager (Patron Services and Programme) ほか

(3) 概要説明

次の内容等について、説明があった。

- ア 香港文化中心の概要と周辺環境について
- イ 大劇院について
- ウ 劇場について
- エ コンサートホールについて

(4) 施設内見学



(5) 質疑応答

質 疑 劇場については、どのくらい利用されているか。また、事前のセッティングやリハーサルといった利用についても料金を徴収しているのか。

応 答 稼働率は 97%から 99%である。1週間単位で貸し出しており、セッティングやリハーサルもそういった貸出期間の中で行う形となる。

質 疑 バリアフリーについては、どういうふうに取り組んでいるか。

応 答 難聴の方には、ヒアリングループを耳に着けてもらうことで、音が聞き取りやすいよう補助することができ、また点字ブロックにより目の不自由な人が歩きやすいようになっている。車椅子に対しては、全てのホールに車椅子の席があり、例えばコンサートホールにおいては、右側に車椅子を 10 台置くことのできるスペースがある。車椅子で利用できるお手洗いも用意している。



(6) 調査結果

- 香港文化中心の概要と周辺環境については、次のとおりであった。
 - ・ 1989年にオープンした、香港における代表的な公立文化施設である。大劇院、劇場、コンサートホールといった施設によって主に構成され、そのほかにも展示

館や会議室等を備えており、舞台芸術の公演等以外においても活用される。

- ・ 建物の構造として、屋根がワイヤーにより吊り橋状に構成されているため、屋内においては視界を遮るような柱がなく、広く空間が使われている。
- ・ 1970年代から行われてきた4段階の開発計画の対象となっている5万2,000平方メートルの周辺区域の中で、2期目において香港文化中心が建設された。なお、建設においては日本企業の熊谷組が携わっている。また、1期目の開発においては、宇宙に関する展示やプラネタリウムの上演等を行う香港太空館が建設された。
- ・ 敷地内に存在する周辺施設として、レストランが存在するほか、行政大楼（行政施設）には婚姻登記所があり、婚姻届の提出が可能である。
- ・ 近隣には、前述の香港太空館や香港芸術館といった文化施設のほか、公園やショッピングモール、世界文化遺産の時計塔、ビクトリア湾を眺めつつ隣町まで歩くこともできるプロムナードであるウォーターフロントなどがある。なお、ビクトリア湾沿いでは、シンフォニー・オブ・ライツと呼ばれるレーザーショーが毎日20時から行われており、観光客の人気を集めている。
- ・ 香港で一番の繁華街である尖沙咀に位置し、近隣には尖沙咀駅があり、フェリーターミナルも近く、有名なホテルも多いなど、誘客という観点において非常に優れた立地にある。

○ 大劇院については、次のとおりであった。

- ・ 1,734席を誇る大型の劇場施設であり、24.9メートル×19.62メートルのメインステージのほかに、17.63メートル×13.2メートルのバックステージ及び16メートル×11.5メートルのサイドステージがある。また、108平方メートルから142平方メートルまでのオーケストラピットピットを有する。
- ・ レ・ミゼラブルやミス・サイゴンといった有名作品の公演が上演されたことがあり、特にミス・サイゴンの上映においては、広大なバックステージを生かしてヘリコプターの舞台セットを展開するといった活用がなされた。

○ 劇場については、次のとおりであった。

- ・ 制御室からの操作により、8本の照明バーの操作が可能となっている。紐で吊り上げる形になっているため、あまり大掛かりな移動こそできないものの、臨機応変なセットチェンジに貢献している。
- ・ ステージ形式の変更が可能であり、それに伴い、舞台面積及び観客席数が変動する。エンドステージ形式では舞台面積13.4メートル×9.88メートル、観客席数321席、スラストステージ形式ではダウンステージ8.24メートル×9.55メートル及びアップステージ13.4メートル×5.35メートル、観客席数303席、アリーナステージ形式では8.24メートル×8.24メートル、観客席数496席、トランスベースステージ形式では13.4メートル×8.13メートル、観客席数382席となる。さらには観客席をなくし、13.3メートル×19.5メートルの舞台を用意するという形式を取ることも可能である。
- ・ 使用料については、4時間貸出しで5,600香港ドルであり、日本円では11万円程度に相当する。ただ、NGOの慈善団体による使用の場合、助成金が出るため、料金は本来の35%となる。

- ・ 小規模な劇・パフォーマンスに適した施設であり、実際、小規模な芸術団体に非常に人気がある。香港の中心地である尖沙咀に位置することから、集客に有利であることも人気の理由となっている。
- コンサートホールについては、次のとおりであった。
 - ・ 楕円形のステージを観客席が取り囲むような構成になっており、ステージ面積は18.49メートル×14.85メートル、観客席数は1,971席を誇る。
 - ・ 調整可能な反響板を備え、また反響板の裏にある幕をカーテンのように降ろすこともでき、特にパイプオルガン演奏時に用いる。また、照明の中心にキャノピーという遮蔽物を設置することで、演奏音を反響させ、演者に聞こえるような仕組みとしている。
 - ・ 設置されているパイプオルガンは、1989年に製造されたものであり、4列の鍵盤、93個のストップ及び8,000本ものパイプを持つ非常に大規模なものである。パイプオルガンを用いた公演も定期的に開催されており、またパイプオルガンの維持のため、温度・湿度面での管理が注意深く行われている。
 - ・ 難聴音楽会と題し、耳の不自由な方向けの演奏会も開催している。
- これら香港文化中心における市民の文化活動における公立施設の利活用及び周辺環境との調和を考慮した文化振興等に係る取組内容を聴取するとともに、同施設内及び設備を現地で視察したことにより、本県の文化振興に係る今後の委員会審査をする上で、参考となった。

7 香港芸術館

(1) 調査目的

香港芸術館（HKMOA）は、康樂及文化事務署の所管する香港において最も歴史ある公立文化施設の一つであり、中国本土の古美術や地元香港の中国文化と西洋文化が融合した特徴的な文化背景に根差した伝統的美術品、さらには現代美術作品など、豊富な収蔵品に基づく充実した展示を実現し、文化振興に努めている。

香港同様、豊富な歴史的・文化的背景を持つ本県においても、マグネット・カルチャーと称し、県に根差した伝統文化から現代的なパフォーミングアートまで、幅広く文化芸術の魅力で人を引きつけ、地域のにぎわい創出に努めているところである。

そこで 香港芸術館を訪問し、地域の特徴を生かした文化振興について調査することにより、今後の委員会審査の参考に資するものとする。

(2) 出席者

Manager (Art) ほか

(3) 概要説明

次の内容等について、説明があった。

- ア 香港芸術館の概要について
- イ 寄贈品の展示について
- ウ 技術と芸術の融合について
- エ 4大コレクションについて

(4) 施設内見学



(5) 質疑応答

質 疑 香港では、ここで展示されているようなデジタルやバーチャルリアリティといった現代技術を活用した作品の展示がされることも多いのか。マカオにおいては、例えばギャラクシー・マカオでは、最新技術を大いに活用しているようだった。

応 答 香港でも、近年、A I、デジタル、バーチャルといった最新技術を活用した展示は、非常に多く催されている。

(※ 上記以外の質疑は、施設見学中に隨時行われた)



(6) 調査結果

- 香港芸術館の概要については、次のとおりであった。
 - ・ 康樂及文化事務署の所管する当施設は、1962年に設立され、2022年に60周年を迎えており、公立美術館としては香港で最も歴史ある施設である。
 - ・ 2019年11月30日にリニューアルオープンした。改裝の最も大きな特徴として、外壁をガラス張りにし、館内から外の景色を眺められるようにしたことが挙げられ、特にリニューアルオープン直後は、非常に盛況であったとのことであった。
- 寄贈品の展示については、次のとおりであった。
 - ・ 豊富な収蔵品により充実した展示を行う香港芸術館において、寄贈品もまた、

収蔵品を構成する一要素として展示を支えており、具体的には、寄贈品によって構成される展示の一つとして、袖珍厚禮A r t o f G i f t i n gと題され、鼻煙壺の展示が行われている。

- ・ 2023年にコレクターから490点の鼻煙壺の寄贈を受けたことにより実現した当展覧会の題名については、香港芸術館へのギフトであると同時に、来場者に対してのギフトでもあるという思いも込めたネーミングとなっている。
- ・ 色別・素材別に分類された展示方法や材質の印象を生かすための暗めの照明により素材の魅力を感じてもらうとともに、クラシカル、アジアンティスト及び現代的といったおのののデザイン性に着目した分類展示もなされており、ショッピングモールで買物をするかのように楽しめる展示となっている。
- ・ 鼻煙壺は、人型や動物をかたどったもの等、様々な形をしたものがあり、形状の関係上、倒れないよう立たせて展示することは難しかったが、それぞれの魅力を引き立てるため、立てて展示をしているとのことであった。

○ 技術と芸術の融合については、次のとおりであった。

- ・ バーチャルリアリティ等現代技術の要素をふんだんに用いた現代美術の展覧会も催されていた。具体的な展示内容として、視察時には、シャボン玉をスクリーンに表示させ、その中に鑑賞者の像が入り込んだ様子を鑑賞するという作品の展示がされていた。壁面の黒い鏡に様々な木々が反射して、様々な見方ができるとともに、自分たちと自然界の関係を改めて考え直させるような展示となっているとのことであった。
- ・ 様々な映画からインスピレーションを受け、それらを抽象的なイメージに作り替え、未来の映画はどのように発展していくのか、見るだけでなく観客が参加できる映画も創出されるのではないかといったコンセプトの下に作成された作品も展示されている。
- ・ 目や口といった身体の部位を映したモニター同士が近づいたり離れたりと移動し、人間関係もこのように近づいたり離れたり、別のところとくつついたりと不規則に移動することを表現した作品も展示されている。モニターの女性が別のモニターを直視しないことから、アイコンタクトのない人間関係、密接になりたくない人間関係をもまた表現しているとのことであった。

○ 4大コレクションについては、次のとおりであった。

- ・ 香港芸術館におけるメインの展示として、中国の古美術、香港の現代美術、中国の絵画と書道、中国の貿易美術の4分野における収蔵品の展示がある。
- ・ 全部で1万9,500点にもなる収蔵品のうち500点を抜粋して展示している。
- ・ 来場者が12個の質問に答えることにより、好みの作品が分かるといった鑑賞方法の案内も提供している。
- ・ 中国の古美術の特徴として、竹が中国の文化的要素をよく代表するモチーフとなっているため、竹をモチーフにした絵画が多いことがある。
- ・ 中国の貿易美術として、例えば中国の鳥や花を西洋風に描いた絵画が展示されている。かつて西洋人が香港を訪れた際、東洋にはこういったものがあるということで、そういう絵画を購入し、持ち帰ったとされる。

- これら香港芸術館における地域の特徴を生かした文化振興に係る取組内容は、本県の文化振興に係る今後の委員会調査をする上で、参考となつた。

7 啓徳体育園

(1) 調査目的

啓徳体育園は、2025年3月に開業した香港における最新の総合スポーツ施設であり、香港政府が重要施策に位置づけるなど、同地において重要性を増すメガイベントの開催に適した施設であるとともに、香港市民にとってスポーツとコミュニティーの中心を担う新たな拠点となつてゐる。

本県でも県民誰もが生涯にわたりスポーツを楽しみ、活力ある地域社会の実現を目指しており、県立スポーツセンターをはじめ、様々なスポーツ施設を活用したスポーツの推進を図つてゐるところである。

そこで 啓徳体育園を訪問し、総合スポーツ施設の活用によるスポーツ振興施策の推進について調査することにより、今後の委員会審査の参考に資するものとする。

(2) 出席者

香港政府文化体育及旅游局 Senior Executive Officer (Sports and Recreation)、啓徳体育園有限公司 Senior Manager (Customer Relationship Management) ほか

(3) 概要説明

次の内容等について、説明があつた。

- ア 啓徳地区開発の沿革について
- イ 啓徳体育園の概要について
- ウ 啓徳主場館の概要とパブリックスペースの活用について

(4) 施設内見学



(5) 質疑応答

質 疑 メインスタジアムである啓徳主場館について、モデルになった施設があると思うのだが、どこの国の中のものを参考にしたのか。

応 答 スペインのレアルマドリードのサッカーグラウンドをはじめ世界的に有名なスポーツグラウンドやスタジアムを設計しているPOPULOUSという設計会社が設計した。小売施設に関しては、K11アートモールを運営している会社が設計を担当したが、これは小売施設の設計に関する経験を買われたためである。

質 疑 建設の際、費用は全額、政府から出ているのか。公立施設なのかどうか。

応 答 政府が出資し、啓徳体育園有限公司がデザイン・建築・運営を担当した。また、竣工後は25年間の契約で同社が運営している。政府の資産という意味では、公立施設であると言える。

質 疑 建設までに20年かかったとのことだが、なぜか。

応 答 需要の移り変わりに対応する必要があったことなどから、政府の土地開発計画の決定に時間がかかったためである。企画開始当初は、都心部における貴重な広大な土地ということで、何に活用すべきかといったことがかなり議論され、一時期は非常に住宅不足だったため、商業施設を削ってもっと住宅を造るべきだという議論もあったりしたため、20年間の中で、計画内容を発展させてきた形である。

質 疑 本県には、サッカーワールドカップの決勝戦の会場にもなった国立の競技場である横浜国際総合競技場があるが、これは近くを流れる河川が氾濫した際、その水をスタジアムの下に流し込み、洪水対策とするということで、国立競技場として設置されたものである。国立の競技場というと、そういった公益的要素が必要とされるわけだが、啓徳スタジアムが公立施設なのだとすれば、そういった要素があるのかどうか。あるいは商業目的や珍しい土地をうまく活用しようという観点からの設置なのか。第三セクターのようなものなのか。

応 答 香港政府の施策の一つとして、スポーツ普及と専門化、エリート選手を多く産みだしていきたいというものがある。そのために国際水準を満たす競技場を造るという政策の下、設置された。

質 疑 実施されるスポーツイベントにおいてラグビーやサッカーがメインなのは、かつてイギリス領だったという歴史も関連するのか。

応 答 イギリス領であったことが影響している面はあると思うが、今の香港において人気のスポーツはそれだけではなく、例えばNBAの影響により、バスケットボールが若者に人気である。

また、スポーツ産業としては、西洋や日本のものを参考にしている部分がある。香港政府としては、スポーツの産業化を推進したいと考えており、これまで政府がスポンサーとして発展を牽引してきたところを、今後は民間企業の参画を拡大する方向性である。啓徳体育園においても様々なパブリックスペースを用意することで、民間企業のスポンサーのイベント活動を後押ししている。

質 疑 全体で、費用はどの程度かかったか。

応 答 土地を含めない建物のみの額になるが、約300億香港ドルかかった。

質 疑 啓徳主場館のみの費用としては、どの程度のものであったか。

応 答 約76億香港ドルかかった。

質 疑 啓徳体育園の敷地内に、医療機関はあるのかどうか。

応 答 お見込み通りで、現在建設中である。



(6) 調査結果

○ 啓徳地区開発の沿革については、次のとおりであった。

- ・ 啓徳の歴史を代表する存在として、現在の香港国際空港が設立される前に稼働しており、啓徳空港と通称された旧香港国際空港があるが、地名自体は空港設立前から存在しており、1911年に九龍湾地域の開発のための埋め立てを行ったイギリスの実業家カール・カイ（何啓）及びアレクサンダー・テック（区徳）の人名から取られたものである。

- 埋立当初は、大陸からの移民・難民の受入れのため、住宅地となる予定であったが、当時の香港の経済事情により実現せず、イギリスにより軍用機の発着場として利用されることとなり、1930年8月末までに啓徳空港の原型が形成されていった。なお、旅客機の運用に当たっては、着陸時に周辺ビルのすぐ近くを飛行する経路を取る必要があり、香港カーブと呼ばれ、有名であった。
- 旅客機需要の向上に伴い、新滑走路の建設をはじめ1958年から1967年にかけて拡張建設が行われ、現在の啓徳が形成されるに至る。
- 啓徳空港が1998年7月に閉港した後、周辺地区の活用として啓徳体育園の建設が行われ、2025年3月に開業となった。

○ 啓徳体育園の概要については、次のとおりであった。

- 啓徳空港の閉港により使用されなくなった敷地は、都心部に存在する遊休地として非常に珍しい大規模なものであったため、香港政府は、スタジアムのような単一のスポーツ施設のみでなく、総合開発として当地域の開発を進めることとした。複数のスポーツ施設に加え、周囲に商業施設や住宅の建設がなされたことで、単一のスポーツ施設のみでは難しいとされた駅の新設であったが、結果として、啓徳駅及び宋皇臺駅といった二つの駅が地域の東西に新設されるに至った。
- メインスタジアムである啓徳主場館のほか、室内競技用のアリーナ施設である啓徳体芸館や、スポーツ用品店や飲食店をはじめ様々な小売店の入ったショッピングモールである啓徳零售館、5,000席もの観客席を有する陸上競技用グラウンドである啓徳青年運動場などを備える。なお、商業施設のみの面積として60万平方フィート（約5万5,740平方メートル）を占め、これは香港において広大な部類に入る。
- 大型施設の開発においては、多くの人に活用されることが肝要であるため、施設は無料での提供を基本としており、例えば啓徳青年運動場においては、夜間は少額の利用料を徴収するものの、日中の利用については無料である。
- そのほかにも敷地内には様々な施設が存在し、開発中のものもある。例えばヘルスアンドウェルネスセンターが設置されており、地域住民の健康増進に寄与している。また、啓徳ギャラリーという展示施設が設置され、啓徳地区開発の沿革や啓徳体育園について展示されている。

○ 啓徳主場館の概要とパブリックスペースの活用については、次のとおりであった。

- 啓徳体育園におけるメインスタジアムであり、収容人数5万人を誇る。豊富なキャパシティを生かしたメガイベントの会場として活用され、その際は、隣接する中央広場をセキュリティチェックを行う場として、5万人もの観客の受入れを行っている。
- 東洋の真珠をコンセプトとした外観を持つ当施設の外壁は、27万枚もの三角形のパネルで構成されており、それらの間にLEDライトが線状に配置され、イベントに応じた様々な演出を可能にしている。
- 香港で例年開催される国際的なスポーツイベントとして最も有名かつ啓徳主場館において開催されるものとして、7人制ラグビーが挙げられる。大会開催時は、試合そのものだけでなく、これまでの開催における経験から、会場周辺における

イベント開催についても重視している。それらイベントにより子供が遊ぶことができるため、大人だけでなく家族で楽しむことができる。また、スポンサーも様々な企画を展開することができるため、スポーツ施設だけでなく、周辺のパブリックスペースの開発についても重視しているとのことであった。また、今後香港で開催されるサッカーの試合においては、日本における野球の試合を参考に、試合中においても会場周辺で様々なイベントを開催し、子供も楽しめるよう展開していくとのことであった。

- ・ 香港の気候条件として、温度だけでなく、湿度が高いという特徴がある。そのため、啓徳主場館の天井は開閉可能であり、また全観客席から冷房が出るようになっているが、これについては、空港時代に滑走路だった敷地を利用して冷水を生成できる施設が建設され、そのシステムと観客席を接続することにより冷気を発することが可能な設計となっている。なお、海水を用いて冷気を生成しているため、環境にも配慮したシステムとなっているとのことであった。
- これら啓徳体育園における総合スポーツ施設の活用によるスポーツ推進に係る取組内容を聴取するとともに、同園を現地で視察したことにより、本県におけるスポーツ振興に係る今後の委員会審査をする上で、参考となつた。